



- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 多目的国際ターミナル | 10 水面貯木場 |
| 2 西埠頭岸壁 | 11 魚市場 |
| 3 RORO船ターミナル | 12 中央埠頭岸壁・荷さばき地 |
| 4 御前崎港マリナー | 13 県営上屋 |
| 5 御前崎港運(株)西埠頭倉庫 | 14 東埠頭岸壁 |
| 6 御前崎港運(株)鋼材倉庫 | 15 東埠頭野積場 |
| 7 御前崎共同物流センター | 16 中部電力(株)専用岸壁 |
| 8 アオキトランス(株)御前崎国際物流センター | 17 マリンパーク御前崎 |
| 9 シェブロンジャパン(株)専用棧橋 | |

「にぎわい」を生み出す港に
 これまでに、自動車やコンテナの積み卸しといった港湾貨物を取り扱う「港湾荷役」の仕事に従事してきた江川央生さんは、御前崎港の物流をよく知る一人だ。

「完成して間もない頃の御前崎港は、丸太の輸入港として主に機能していました。時代の変化に伴い、次第に自動車やコンテナの輸出入が始まりました。例えば、浜松市に本社を置く日本の大手自動車メーカー・スズキ株式会社の車です。当初は年間1万台の取り扱いでしたが、最盛期は20万台、現在でも12万台ほどを計上しています。

港が物流の拠点になると雇用が生まれ、このまちに住む人だけでなく、市外からも人が集まるようになってきました。御前崎港の建設がまち全体の発展に寄与したとも言えるでしょう。市民の皆さんには港の重要性を理解していただけると幸いです。」



御前崎埠頭株式会社
 常務取締役 江川 央生さん



南駿河湾漁業協同組合
 代表理事
 組合長 藪田 国之さん

藪田さんは、祖父の代から続く「日光水産株式会社」を経営し、自らも漁船に乗った。

「御前崎は昔から漁業の盛んな地でしたが、大きな港がないため、ここに住む人たちは半農半漁の生活をしていました。そんな中、若い漁業者は清水や焼津を基地とする遠洋鯉鮪漁船に乗って大金を稼ぎ、まちを潤わせました。その後、漁業者の強い要望が叶い港が建設されると、御前崎港を基地とする「近海かつお漁業」が盛んになり、御前崎港は全国有数の「生かつお」の基地として発展していききました。港が活性化すると観光業も栄え始め、まち全体がにぎわいを見せるようになっていきました」と当時を振り返る。

このように、御前崎港と深い結びつきがある藪田さん。「私たちがお世話になっている港は、先人たちの努力や苦労の上にあるものです。大変感謝しています」と思いを語る。

港とともに成長したまち